

2021年12月～2022年2月

2022年3月1日
札幌管区气象台 気象防災部
地球環境・海洋課

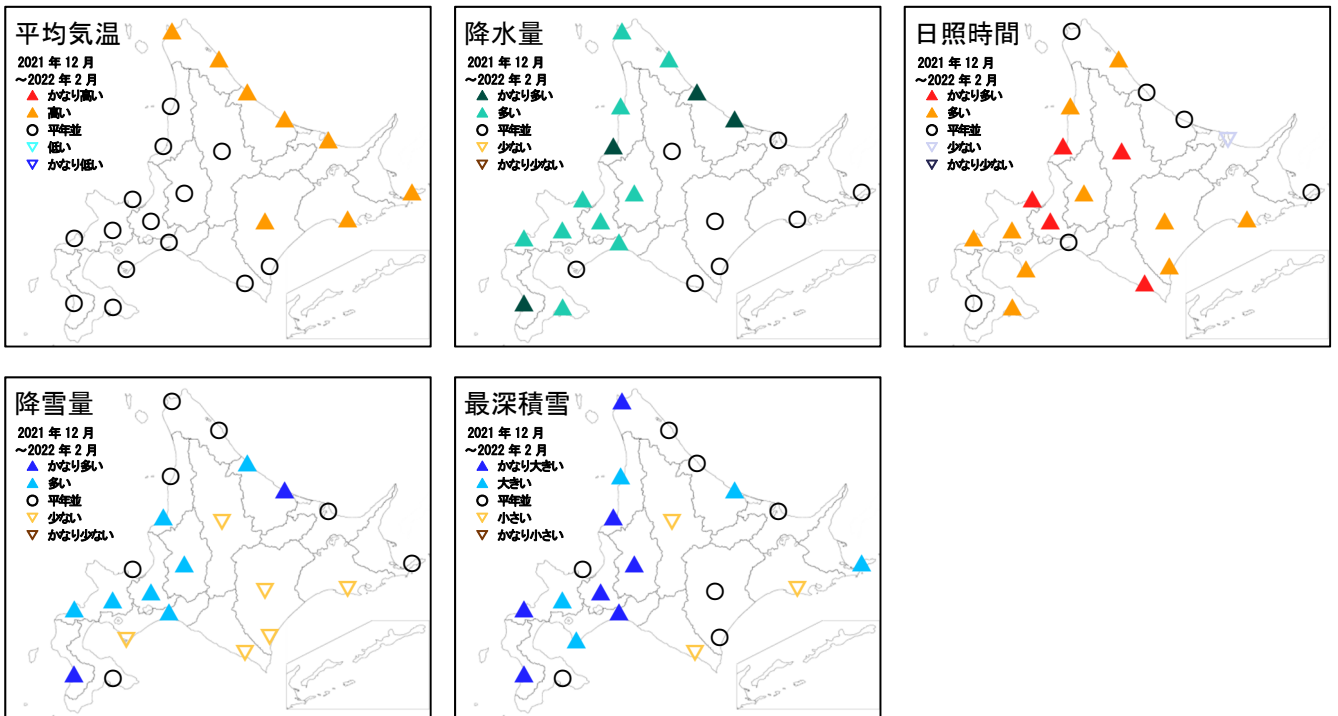
北海道地方 冬の天候

今冬の概況

— 低気圧の影響を受けた日が多く、日本海側とオホーツク海側は4年ぶりの多雪。 —

今冬は、12月前半は寒気の南下が弱かったため、気温は平年よりかなり高かった。12月後半から1月上旬にかけては、冬型の気圧配置が続いたため、北から強い寒気が流入し、気温の低い日が多かった。このため、日本海側を中心に降雪量が平年より多く、記録的な大雪となった所があり、12月下旬の日本海側の降雪量の平年比は、統計開始以降、第1位の多雪となった。1月中旬は、低気圧の影響を受ける日が多く、降水量と降雪量は平年よりかなり高かった。特に、オホーツク海側の降水量と降雪量の平年比は、統計開始以降、第1位の多雨・多雪となった。また、低気圧に向かって南から暖かい空気が流入したため、気温は全道的に平年よりかなり高かった。1月下旬から2月にかけては、高気圧に覆われて晴れた日が多かったが、冬型の気圧配置が続いた時期もあり、日本海側では、2月5日から6日にかけて局地的に記録的な大雪となった所もあった。2月20日から23日にかけては、急速に発達した低気圧と強い冬型の気圧配置の影響により全道的に雪が降り、各地で記録的な大雪や大荒れの天気となった所もあった（統計開始は、降水量1946年、降雪量1961年）。新千歳空港の2月の最深積雪は123cmとなり、2006年11月の統計開始以降、第1位の深さとなった。

階級分布図



季節の統計値(地域平均)

	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.4	0	115	+	110	+	103	0
日本海側	+0.3	0	122	++	116	+	108	+
オホーツク海側	+0.7	+	129	++	102	0	113	+
太平洋側	+0.4	0	99	0	107	+	91	-

注) ・数値は、地域内の气象台等(日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点)の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。
・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

月別の統計値（地域平均）

12月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.9	+	107	+	118	++	85	-
日本海側	+0.6	+	127	++	126	+	108	+
オホーツク海側	+1.2	+	79	0	128	++	98	0
太平洋側	+1.0	+	96	0	103	0	50	-

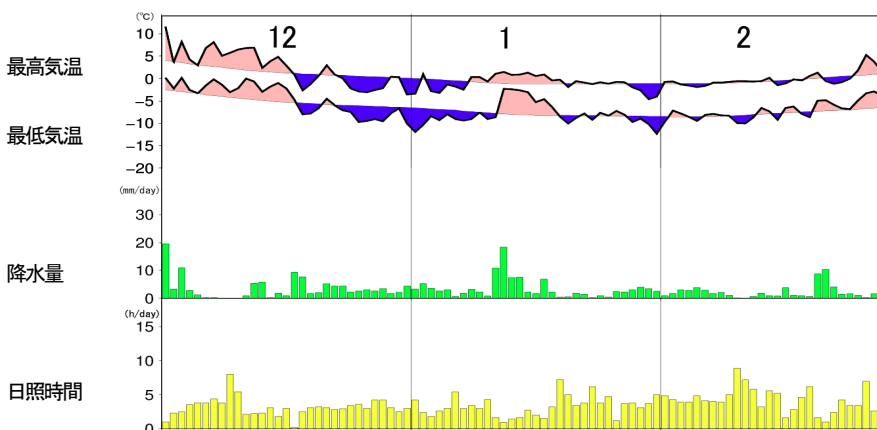
1月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	0.0	0	144	++	109	+	120	+
日本海側	-0.1	0	125	++	115	+	106	0
オホーツク海側	0.0	0	211	++	96	0	144	++
太平洋側	+0.1	0	135	+	108	+	125	+

2月	平均気温		降水量		日照時間		降雪量	
	平年差(°C)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級	平年比(%)	階級
北海道地方	+0.5	0	95	0	107	+	97	0
日本海側	+0.5	0	111	+	113	+	109	0
オホーツク海側	+1.0	+	113	+	87	-	87	0
太平洋側	+0.3	0	67	-	108	+	88	0

注) ・数値は、地域内の气象台等（日本海側10地点、オホーツク海側4地点、太平洋側8地点で北海道地方全体で22地点）の観測値の平年差または平年比の平均を示す。階級の++は平年よりかなり高い(多い)、+は平年より高い(多い)、0は平年並、-は平年より低い(少ない)、--は平年よりかなり低い(少ない)を示す。

・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

気象経過図



冬（12～2月）の日々の気象経過（北海道地方）

【気温】

今冬は、12月前半と1月中旬は平年より高い日が多かったが、12月後半から1月上旬にかけては、北からの寒気の流入により、平年より低い日が多かった。冬の平均気温は平年差+0.4°Cと平年並となった。

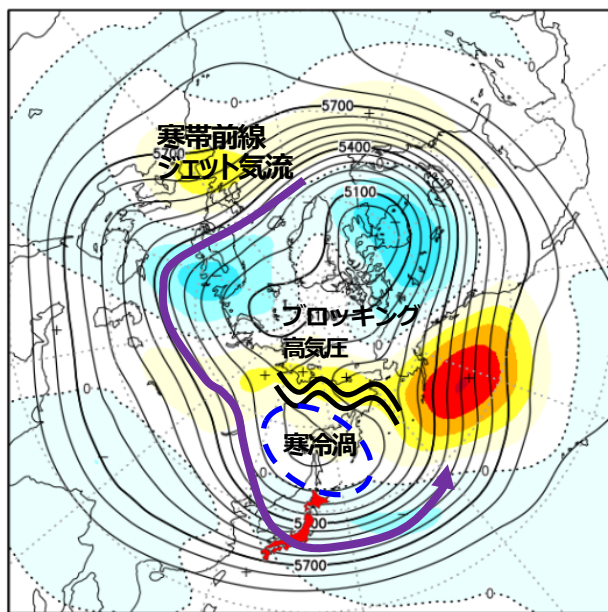
【降水量】

12月後半と2月の上半は冬型の気圧配置が続き、1月は低気圧の影響を受ける日が多かった。このため、12月は日本海側で平年よりかなり多く、1月は日本海側とオホーツク海側で平年よりかなり多かった。2月は日本海側とオホーツク海側で平年より多かった。冬の降水量の平年比は115%と平年より多かった。

【日照時間】

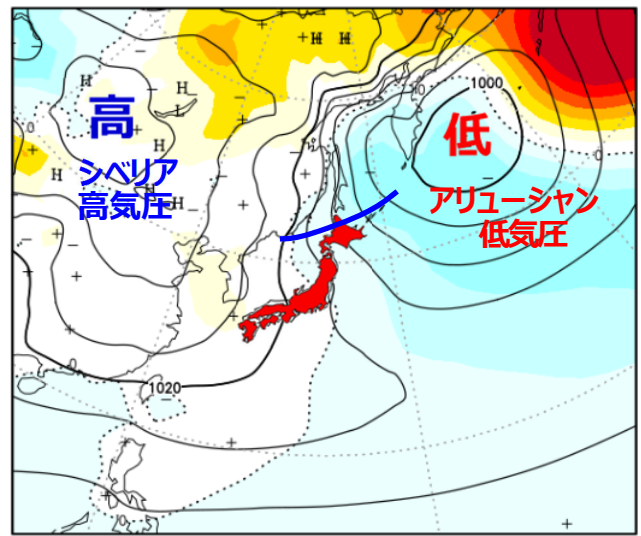
今冬は、大陸の高気圧が日本付近に張り出しやすかったため、期間を通して月間日照時間は平年より多かった。特に12月は、高気圧に覆われやすかったため、オホーツク海側を中心に平年よりかなり多かった。冬の日照時間の平年比は110%と平年より多かった。

冬の大気の流れと地上天気図の特徴



北半球の3か月平均 500hPa 高度と年間偏差
(年間値は 1991～2020 年の平均値)

実線は 500hPa 高度 (m)、着色は年間偏差 (m)。
年間偏差が暖 (寒) 色の領域は年間より高度が高 (低) く、一般に暖 (寒) 気に覆われやすい。上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている所で偏西風が蛇行しており、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強い。



日本付近の3か月平均海面気圧と年間偏差
(年間値は 1991～2020 年の平均値)

実線は等圧線 (hPa)、点線は年間偏差 (hPa) を示す。年間偏差の暖 (寒) 色は、年間より気圧が高 (低) い領域を示す。寒色の領域では、年間より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

500hPa (上空約 5500m) 天気図

東シベリア付近にブロッキング高気圧 (黒実線) があり、その南側では寒冷渦 (青点線) が位置しやすかった。寒帯前線ジェット気流 (紫実線) が日本付近で南に蛇行したため、強い寒気が流れ込んだ時期があった。

地上天気図

シベリア高気圧は年間より東側で強く、アリューシャンの南から北日本にかけては年間より気圧が低かった。また、千島近海から北海道の西海上にかけては、気圧の谷となった (青実線)。このため、北海道付近は気圧の谷や低気圧の影響を受けやすく、一時的に冬型の気圧配置が強まり、日本海側を中心に大雪となった時期もあった。

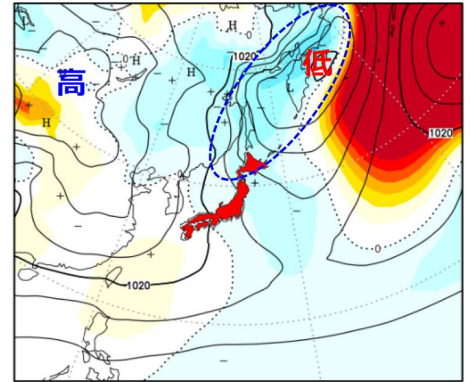
月毎の気象

(1) 12月

— 前半は高温、後半は低温で下旬の日本海側は記録的な大雪。 —

気象経過：12月前半は、高気圧の張り出しの中となって晴れた日もあったが、冬型の気圧配置や低気圧の影響により雨や雪の降った日もあった（1日に釧路市阿寒湖畔で日降水量111.5mmなど）。また、寒気の南下が弱かったため、気温の高い日が多かった。一方、後半は、冬型の気圧配置が続き強い寒気が流入したため、気温の低い日が多く、日本海側を中心に雪の降った日が多かった。特に、17日と24日は記録的な大雪となった所もあった（日降雪量は17日に小樽で52cm、24日に稚内空港で57cmなど）。

地上天気図：アリューシヤンの南で平年より気圧が高く、アリューシヤン低気圧が平年より弱かった。このため、北海道付近は冬型の気圧配置が平年より弱かった。また、カムチャツカ半島付近から北海道付近にかけて平年より気圧が低く（青点線）、北海道付近は低気圧や気圧の谷の影響を受けた時期もあった。



12月の地上天気図

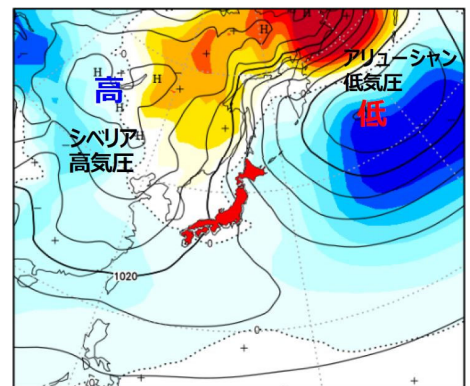
図の見方は冬の地上天気図に同じ

(2) 1月

— 冬型の気圧配置や低気圧の影響で多雪。特に中旬はオホーツク海側で記録的な大雪。 —

気象経過：1月上旬は、冬型の気圧配置や低気圧の影響で日本海側を中心に雪の降った日が多かったが、太平洋側では晴れた日が多かった。中旬は冬型の気圧配置や低気圧の影響で雪の降った日が多かった。特に、11日から12日にかけては急速に発達した低気圧の影響で大荒れの天気となり、その後15日にかけて、強い冬型の気圧配置の影響で記録的な大雪となった所があった（12日に音威子府で日降雪量65cmなど）。下旬は冬型の気圧配置や気圧の谷の影響で雪の降った日もあったが、高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多かった。

地上天気図：シベリア高気圧が平年より弱く、アリューシヤン低気圧が平年より南東側で強かった。このため、北海道付近は冬型の気圧配置が長続きしなかった。また、北海道付近は平年より気圧が低く、低気圧や気圧の谷の影響を受けた時期もあった。



1月の地上天気図

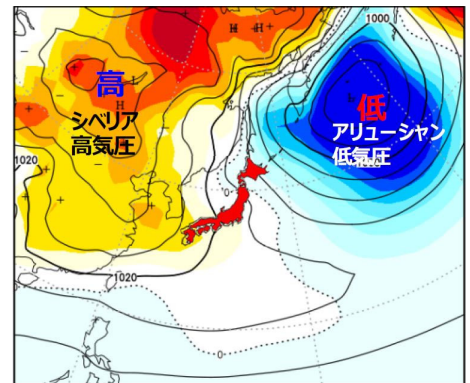
図の見方は冬の地上天気図に同じ

(3) 2月

— 冬型の気圧配置と低気圧の影響で記録的な大雪の所も。 —

気象経過：2月上旬は、冬型の気圧配置が続いたため、太平洋側では晴れた日が多かったが、日本海側では雪の降った日が多かった。特に、5日から6日にかけては強い雪雲が断続的に流入したため、石狩地方では記録的な大雪となり、札幌では24時間降雪量60cmを観測した。中旬は、気圧の谷や低気圧の影響により雪が降り、局地的に大雪となった所もあったが、高気圧に覆われて全道的に晴れた日もあった。下旬は、前半を中心に冬型の気圧配置が続き、日本海側を中心に雪の降った日が多かった。20日から23日にかけては、急速に発達した低気圧と強い冬型の気圧配置の影響により大荒れの天気となり、22日に豊浦町大岸で日降雪量61cmを観測するなど記録的な大雪となった所もあった。

地上天気図：シベリア高気圧は平年より勢力が強く、大陸から西日本付近へ張り出した。アリューシヤン低気圧は平年より南側で強く、オホーツク海にかけて平年より気圧が低かった。また、北海道付近にかけても気圧が低く、北海道付近は低気圧と強い冬型の気圧配置の影響により、日本海側を中心に大雪となった時期もあった。



2月の地上天気図

図の見方は冬の地上天気図に同じ

季節の統計値（地点別）

官署名	平均気温			降水量			日照時間		
	本年 ℃	平年差 ℃	階級	本年 mm	平年比 %	階級	本年 h	平年比 %	階級
稚内	-2.8	+0.7	+	332.0	127	+	156.0	108	0
北見枝幸	-4.1	+0.5	+	284.5	120	+	267.3	108	+
羽幌	-3.1	+0.2	0	418.0	120	+	199.9	122	+
雄武	-4.4	+0.6	+	202.5	142	++	311.8	104	0
留萌	-2.7	+0.4	0	411.0	145	++	198.2	134	++
旭川	-5.3	+0.4	0	200.0	90	0	266.1	115	++
網走	-3.5	+0.8	+	176.5	110	0	342.4	94	-
小樽	-2.0	+0.3	0	444.5	111	+	237.2	118	++
札幌	-2.0	+0.3	0	390.5	122	+	315.8	115	++
岩見沢	-3.9	+0.2	0	431.5	126	+	294.0	108	+
帯広	-4.4	+1.1	+	121.5	98	0	587.4	107	+
釧路	-2.9	+0.7	+	126.0	100	0	588.1	108	+
根室	-1.8	+0.7	+	103.5	90	0	491.2	105	0
寿都	-1.2	+0.3	0	446.5	128	+	119.5	119	+
室蘭	-0.7	+0.2	0	176.0	106	0	301.4	106	+
苫小牧	-2.5	+0.1	0	141.0	105	+	424.4	103	0
浦河	-1.3	+0.1	0	109.5	89	0	466.5	112	++
江差	0.5	+0.2	0	379.0	143	++	132.1	105	0
函館	-1.3	+0.1	0	249.5	104	+	322.4	103	+
倶知安	-4.4	0.0	0	592.5	112	+	181.0	119	+
紋別	-3.6	+0.7	+	196.0	143	++	313.8	102	0
広尾	-2.6	+0.5	0	224.5	99	0	528.6	111	+

注) ・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。

・「) 」付きの値は欠測を含む。「] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

季節統計値の順位値更新一覧（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
12月	月降水量(多い)	第1位	稚内	210.5 mm	186 %	192.2 mm (1967)	1938
	月間日照時間(多い)	第3位	紋別	124.5 h	131 %	127.5 h (1986)	1956
1月	降雪の深さ月合計値(多い)	第1位	苫小牧	105 cm	250 %	83 cm (2000)	1953
		第3位	江差	141 cm	183 %	196 cm (1953)	1953
	月降水量(多い)	第3位	雄武	109.0 mm	252 %	130.1 mm (1958)	1943
	月間日照時間(多い)	第3位	浦河	177.2 h	125 %	181.5 h (1974)	1927
2月	なし						
12-2月	冬の日照時間(多い)	第3位	浦河	466.5 h	112 %	506.7 h (2000)	1928

今冬の降雪量と最深積雪（地点別）

	降雪量													冬最深積雪					
	12月				1月				2月				冬合計						
	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	平年比	階級	本年	平年値	階級
cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm	%		cm	cm		
稚内	182	122	149	++	109)	129	84	-	56)	105	53	--	347	358	97	0	105]	69	++
北見枝幸	167	139	120	+	159	138	115	+	72	110	65	-	398	387	103	0	93	98	0
羽幌	175	154	114	+	147	159	92	0	124	110	113	0	446	420	106	0	117	97	+
雄武	81	83	98	0	136	84	162	++	59	71	83	0	276	236	117	+	76	68	0
留萌	194)	147	132	+	153	165	93	0	136)	120	113	+	483	428	113	+	151]	88	++
旭川	111	158	70	--	89	125	71	-	103	97	106	0	303	378	80	-	70	85	-
網走	52	71	73	-	123	90	137	+	61	69	88	0	236	230	103	0	56	61	0
小樽	142	142	100	0	176	157	112	+	117	130	90	0	435	430	101	0	132	117	0
札幌	114	113	101	0	182	137	133	+	141	116	122	+	437	369	118	+	133	96	++
岩見沢	224	200	112	+	185	187	99	0	188	137	137	+	597	515	116	+	155	119	++
帯広	3	51	6	--	80	52	154	+	27	37	73	0	110	141	78	-	62	69	0
釧路	17	26	65	-	24	32	75	0	15	27	56	-	56	86	65	-	27	32	-
根室	37	28	132	+	47	43	109	+	27	39	69	-	111	110	101	0	40	31	+
寿都	114	108	106	0	136	146	93	-	150)	114	132	+	400	366	109	+	110	73	++
室蘭	14	27	52	-	57	49	116	0	35	45	78	-	106	121	88	-	34	25	+
苫小牧	3	29	10	--	105	42	250	++	40	42	95	0	148	113	131	+	50	31	++
浦河	11	28	39	-	35	41	85	0	44	35	126	+	90	104	87	-	11	19	-
江差	47	49	96	0	141	77	183	++	65	60	108	0	253	186	136	++	62	26	++
函館	59	79	75	0	89	91	98	0	80	74	108	+	228	244	93	0	44	44	0
倶知安	262	253	104	0	247	253	98	0	213	187	114	+	722	689	105	+	218	182	+
紋別	74	75	99	0	142	87	163	++	87	77	113	0	303	238	127	++	81	59	+
広尾	11	60	18	--	96	83	116	+	68	70	97	0	175	214	82	-	88	90	0

注) ・平年値は1991～2020年の30年間の平均値です。

- ・階級の++は平年よりかなり高い(多い、大きい)、+は平年より高い(多い、大きい)、0は平年並、-は平年より低い(少ない、小さい)、--は平年よりかなり低い(少ない、小さい)を示す。
- ・「) 」付きの値は欠測を含む。「] 」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。
- ・「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めている。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現する。

真冬日の日数（地点別）

	12月		1月		2月		冬合計	
	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差	本年	平年差
稚内	14	-2.0	24	+0.2	23	+2.3	61	+1.0
北見枝幸	13	-4.4	27	+1.6	22	+0.3	62	-2.2
羽幌	11	-1.4	23	+2.1	20	+3.1	54	+4.2
雄武	13	-3.1	27	+2.1	24	+3.1	64	+2.4
留萌	10	-0.9	21	+0.6	21	+4.9	52	+5.0
旭川	15	-3.8	26	+0.2	24	+4.5	65	+1.1
網走	10	-3.9	29	+4.6	22	+0.8	61	+1.9
小樽	9	-1.8	13	-4.4	15	+1.1	37	-4.8
札幌	9	-0.5	15	-1.7	8	-5.3	32	-7.2
岩見沢	14	-1.5	21	-1.6	20	+2.8	55	-0.1
帯広	8	-4.2	19	-2.1	10	-5.1	37	-
釧路	8	+1.1	15	-1.2	15	+1.1	38	+1.4
根室	7	-1.9	19	-0.4	23	+4.5	49	+2.5
寿都	9	-0.3	11	-4.6	12	-0.7	32	-5.2
室蘭	7	+0.3	6	-6.6	7	-3.2	20	-9.1
苫小牧	8	+1.5	14	+1.5	4	-5.7	26	-2.3
浦河	7	+2.0	7	-3.6	6	-2.8	20	-4.1
江差	7	+3.1	6	-2.5	9	+2.0	22	+2.9
函館	8	+1.3	7	-4.2	10	+2.0	25	-0.5
倶知安	15	-1.0	24	+1.1	17	-0.3	56	+0.2
紋別	13	-2.2	26	+1.5	23	+2.2	62	+1.8
広尾	8	+0.7	18	+0.7	16	+1.0	42	+2.8

注) 真冬日の日数は、最高気温が0℃未満の日数を示す。

今冬に発表した天候に関わる気象情報※

なし

※ ここでの「気象情報」は、平年から大きくかけ離れた気象状況が数日間以上続き、社会的に大きな影響が予想されるときなどに発表する情報を指します。

※データは速報値であり、後日変更される場合があります。

お問い合わせ先

札幌管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174